



校長室だより やる気みなぎる『楽しい』学校



きまがせ

令和6年10月11日
野田市立木間ヶ瀬小学校
校長 松藤 有里

先週、5・6年生対象「あすチャレ！スクール」（主催：日本財団パラスポーツサポートセンター）や4～6年生対象「車いす体験学習」等、心のバリアフリー教育推進の一環として、校外から講師を招いた特別授業を実施しました。

「百聞は一見に如かず」というように、聞くばかりでなく、一度でも目にしたことは強く印象に残るものです。特別授業で目にしたことや体験したことは、子どもたちの心のどこかに、ずっと残っていてほしいと願っています。

「あすチャレ！スクール」の様子については、裏面をご覧ください。



今日で令和6年度前期が終わります。4月に新しい学年がスタートしてから、この半年間で、できるようになったこと、わかるようになったこと等々、その変化の大小はあるかもしれませんが、確実に一人ひとりの成長を感じています。前期終了にあたって、担任から手渡された「あゆみ」を見て、お子さんの頑張りを認めたり、今後の目標設定のきっかけにしたりできればと思います。

保護者の皆様には、やる気みなぎる『楽しい』学校を目指した様々な教育活動の場面で、温かく木間ヶ瀬小学校を見守っていただきました。ありがとうございました。引き続き、後期も本校の教育活動にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

ところで、「あげる」「ひく」等、動作を表す言葉には、いろいろな見方のできるものがありますが、ゆりの木学級には、同じ言葉から連想する事柄を並べた詩の作品が掲示してあります。子どもたちの自由な発想で、とても素敵な詩が生まれています。現在編集集中の文集「かつしか」にも、心を和ませたり、癒したりしてくれるような「ほっこり」する作品が代表で掲載されます。難しく構えることなく、ちょっとした眩きが素敵な作品になるのですね。

家庭学習コンテストには、今年から「自分で創る」部門を創設しましたが、後期にもどんどんチャレンジしてほしいです。

あげる

- 手をあげる
- プレゼントの中身をあげる
- あげものをあげる
- ものをあげる
- 空を見あげる
- (後略)

あげる

- ごほうびをあげる
- 箱を棚にあげる
- 幕をあげる
- すだれをあげる
- 凧をあげる
- 前髪をあげる
- 花火を打ちあげる
- (後略)

ひく

- ひみつのきちの中のレバーをひく
- 音楽室にあるピアノをひく
- 学校にある自分のつくえの中のひきだしをひく
- かえりにかさをわすれて つぎの日に かぜをひく

→→→裏面もお読みください。

【10月1日 **あすチャレ！スクール**（5・6年生対象）の様子から】

10月1日、木間ヶ瀬小学校の体育館に、今日の講師、加藤 正さんがやってきました。

加藤さんは、競泳を始め、アイススレッジスピードレースやアイスホッケーで夏冬パラリンピック合わせて5回も出場したことがあるパラアスリートです！

「共生社会」の一員として、例えば、運動が得意な人も苦手な人も、だれもが楽しく参加できるようなルールをみんなで考えることが大切というお話など、「あすチャレ！スクール」の趣旨やご自身の自己紹介から特別授業は始まりました。

そして、競技用車いすに乗り換えて、早速デモンストレーションです。車いすに乗って、颯爽と走る姿に、子どもたちは目がキラキラ！シュートを決めて、大きな拍手で「ナイスシュート！」。失敗しても、「前向きな言葉かけをしようね。」という通り、「ドンマイ！」「がんばれ！」という声援が沸き起こります。

次は、競技用車いすで全員リレーの時間。

「車いすに乗るという貴重な経験を、大切にしてほしい。」と、速さを競うのではなく、みんなで和気あいあいとリレーを楽しみました。

「まっすぐに進むのが、意外に難しい！」「楽しい！！」

笑顔でリレーを楽しんでいる子どもたち。とても貴重な体験になりました。



そして、6年生の代表による「車いすバスケットボールの体験」です。紅白に分かれて、特別ルールで試合を行いました。だんだん、競技用車いすの動かし方が上手になっていく子どもたち。応援も盛り上がり、シュートがなかなか決まらなくても、みんないい笑顔です。

「車いすバスケ、楽しい！！」という雰囲気の中、今度は、教職員による体験。子どもたちの笑顔を見ているうちに、「やってみたい！」という気持ちが高まっていた私。迷わず参加しましたが、思った以上に競技用車いすに座った状態でボールを投げるのが難しく、何度もシュートを打ったにもかかわらず、一度も入らず…。でも、慣れないスポーツに挑戦してみて、「まずは、やってみることが大切だ。」ということを実感しました。

体を動かし、車いすバスケットボールの楽しさを体感した後は、講師の加藤さんからの話を伺う時間です。



自分を表現する「武器」を見つけよう

「障がいのある人は決して特別な人ではなく、どこにでもいる人。」「大事なのは、その人の身になってみることに、自分のこととして考えてみることに、その人のことを知ることが大切。」「そして、「その人を知るためには、お話をすることで友達になることが大事。」

加藤さんは、ご自身が小学校2年生のときに病気で片足を切断し、その後、様々なパラスポーツに出合っただけでなく、今日まで多くのチャレンジをしてきたこと等を、子どもたちにわかりやすく話してくださいました。



「できるかできないか」ではなく、「やるかやらないか」

失敗するかもしれないけど、楽しそうだから、やってみよう！と思えるか、そして、そのやってみようという気持ちを支えるのは、周囲の応援です。きっかけを大切に、得意なものから、やってみよう！という熱い思いを伝えてくださいました。

最後に、木間ヶ瀬小学校の皆さんへ、「夢を目標に！」というメッセージを色紙に書いていただきました。校長室前にいただいた色紙がありますので、是非見てください！！

